

令和4年度 第1回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和5年2月7日（火）午後7時から8時30分まで
- 2 開催場所 伊東市役所低層棟2階中会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員11人（欠席2人）
市長、中村副市長、教育長、企画部長、事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 委員の委嘱
 - (4) 自己紹介
 - (5) 閉会
- 5 会議概要
 - (1) 開会
企画課長から開会

- (2) 市長挨拶

未来ビジョン会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。未来ビジョン会議委員にご就任いただいた皆様におかれましては、日々、ご多用の中、本市の行政運営にご尽力いただき、厚くお礼を申し上げます。

この未来ビジョン会議ですが、私の公約でありまして、若い世代の市民の皆様から、新たな視点による意見やアイデアをいただき、政策の形成や推進に反映させることを目的に設置しているところでございます。平成29年に私が市長に就任したときから開始いたしまして、これまで子育て施策、文化施策、伊東市総合計画などをテーマに意見交換を行い、大変貴重なご意見をいただいたところでございます。また、コロナ禍において、思うように会議を開催することはできませんでしたが、委員の皆様を少人数に分けて、直接私と意見交換を行ってきたところでございます。現在、本市を取り巻く環境といたしましては、ウィズコロナのもと、経済活動正常化により回復の兆しが見え始めたところではありますが、世界情勢の不安や円安等による物価高の影響が市民生活を直撃してしまっており、観光業を基幹産業とする本市におきましては、今後も厳しい状況が続くと思っております。このような困難な時代を乗り越えるために、新たな価値観による新しい伊東スタイルとして皆様と共に知恵を出し合い、皆が安心して暮らせる伊東の未来に向けて考えてまいりたいと考えておりますので、ぜひ皆様には、ご忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

また、本日、伊東商業高校の皆さんから様々な政策提言をいただきました。とても素晴らしい発表になりました。ご存知のように、伊東商業高校の名前は消えてしまいましたが、約60年の歴史があり、それぞれに思い出の深い学校でもありました。本当に研究を熱心にされた成果を、まさにこの場で聞くことができました。未来に向けた斬新な意見をこの未来ビジョン会議でも皆様から寄せていただきたく、お願いする次第でございます。

ます。どうか、活発な議論がなされますようお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。

(3) 委員の委嘱

小野市長より委員に対し委嘱状交付

※委員の任期は、令和5年3月31日まで

(4) 自己紹介

当局・事務局から自己紹介

【市長】

それでは、座長として会議運営をさせていただきます。ご協力をお願いします。

最初の会議ですので、まず自己紹介と日ごろ生活をする中などで伊東市のまちづくりについて感じている課題や期待していることなど自由にご意見をいただきたいと思えます。緊張されている方もいらっしゃると思いますが、この未来ビジョン会議は私と皆様とがざっくばらんに意見交換をする場にしたいと考えておりますので遠慮なさらずに率直な意見をお願いします。トップバッターは、A委員をお願いします。その後、A委員から時計回りでお願いします。

【A委員】

こんばんは。私は高校の教員をしております。高校生の指導を行って感じることは、入学する生徒の数というところで、中学生の市外への流出が近年顕著になっていると感じております。高校卒業後を考えてときに、市内には上位校がありませんので、必ず市外に出なければいけないという現状があります。市外に出て大学を進学した後で、また伊東に戻ってきたいと思ってくれる生徒がどれだけいるかが課題です。教育をする上で感じているところとしては、高校は県立ですので、なかなか市の行政機関と連携が難しいと感じていますが、生徒が伊東に愛着を持ってもらえるように市と連携していきたいと思っておりますので、開かれた学校作りを目指していきたいと考えております。

【B委員】

皆さんこんばんは。東海自動車と聞くと馴染みがないと思いますので、東海バスで働いています。自己紹介ということで、今、市長からもざっくばらんにということでしたので、私は生まれも育ちも伊東になります。小中高と市内の学校に行きまして、大学で千葉に行きました。その当時は伊東にいたくないと考えていまして、都会で遊びたいという思いが強く、大学時代もとても楽しくて、まだまだ都内で遊びたいという思いが強かったので、就職も錦糸町の会社に入りました。そこで6年間勤めまして、10年間千葉の船橋に住んでおりました。新宿や錦糸町などで本当に楽しい時代を過ごしました。こちらに帰ってくるきっかけとなったのが、10年間遊んで、そろそろ地に足をつけないといけないなと思い、都会で仕事をしていたのですが、やりがいもなく、満員電車もきつくて、伊東に帰ってきて仕事を探そうというところで、ちょうど伊豆新聞に東海バスの事務職の求人があったので、受けたところ受かりまして、そこから16、17年東海バスでお世話になっています。特段、東海バスに絶対入りたいという思いではなく

て、地域のために何かをしたいという崇高な思いもなく、ただ単に帰ってきたいところまで拾ってもらったと思っています。

実際に仕事をして、バスを運行している会社というイメージしかなかったのですが、地域の足を守るという思いで仕事をされている方が多くて、びっくりしたというところがございます。私も感化されて、今は地域のために何かしたいという思いがあって、社員がそういう思いで頑張っておりまして、東海バスの社員が同じベクトルに向かって頑張っている状況でございます。

伊東市のまち作りにつきましては、当社も運転士不足です。宿泊産業も不足していると聞いていますので、伊東には雇用の受け皿はあると思いますが、魅力が訴求できていない、学生を含めた就職したいという方々に帰ってきたいと思えるような魅力を発信できていないと思います。これはもう伊東市が一丸となって、様々な産業が手を取り合って、伊東市の雇用の魅力を全面的にアピールして学生さんに訴求していく。やはり数は力です。年々人口も少なくなってきていますので、人を増やすということが伊東市の力になると思います。このような側面から意見交換ができればなと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【C委員】

こんにちは。私はB委員とは逆で生まれも育ちも東京です。伊東に移住したのは20年以上前になります。

こちらで子どもも育てました。このような点から一番思いが深いのは、地域に守られて子育てができたということです。このことを踏まえまして、地域の役をやりました。

そして今、伊東市の委託を受けて乳幼児がいる家庭の支援として訪問したり、集団型の支援活動をしています。

教育的なことはあまりわかりませんが、勉強させていただけたらと思いました。よろしく願いします。

【D委員】

私の出身は東京の立川で、こちらには全く縁がなかったものです。きっかけは、とあるアニメ作品の舞台に沼津がなっていて、沼津に1年間に何回も通っている内に、沼津に近いところに移住したいというのと、あと私、藤井聡という大学教授がいるのですが、その教授の著書を読んでいるうちに、公共交通とまちづくりを連動させた交通まちづくりに個人的にずっと興味を持っていて、交通関係の仕事がないかなと探していたら偶然、伊豆急行を見つけたので、応募したら受かりました。それまで勤めていた仕事は、議事録を作る仕事でして、速記という技術を用います。相当ブラックな企業だったので、思い切って馬鹿なことやってみようと思い、こちらに移住してきました。

その後、コロナもあり鉄道の利用者が減ってしまったので、駅員が余剰だから、出向しなさいということで、現在の仕事をやっています。この仕事の内容が独特で、弊社の分譲地に温泉を供給する事業をやっています。契約しているお客さまが蛇口をひねると温泉が出るような温泉の契約の管理やお客さまから温泉の出が悪いとかぬるいんだけどというお声をいただきましたら、その都度対応しており、半分営業、半分行政のような仕事をやっています。伊東市のまちづくりに関してですが、公共交通とまちづくりを連動させた交通まちづくりに興味がある中で、個人的に気になったのが、市役所の近くにバス

停はあると思いますが、直接市役所に行くバス路線がないです。私、普段は電車で通勤しているので、市役所までバスで行こうと考えていたのですが、行き方がわからなくて結局バイクできました。路線を新設しなくても、案内あるいは公共交通を使えばこういう良いこともあるよということをうまく発信できれば、モビリティマネジメントという、利用促進でもあるのですが、そのような観点ですとか、あと伊東の市政で良いなと思ったのは、例えば介護福祉の専門学校を卒業した方等に伊東で就職したら奨学金を補助するという制度があったかと思うのですが、とても良いなと思いました。そのような視点が他の自治体にはないものですから、このような職業に対して、移住やUターンを結び付けているというのはさすがだなと感じました。

常に公共交通関連も進化しておりまして、弊社も正直できていないことが多いですが、このような視点を中心に少しでも協力できるのであれば、協力したいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

【E委員】

皆さんこんばんは。私は、生まれも育ちも伊東でして、大学の4年間だけ外に出ました。福祉の仕事をしたくて戻ってきて、14年間ほど障害者施設にいて、今は小室地域包括支援センターにいます。市から委託を受けて、高齢者の困りごとや介護相談、ケアプランを作成する仕事をしています。おそらく、今日市長さんが聞いたのは商業生のヤングケアラーがテーマの提案だと思います。

伊豆新聞で記事を見て商業生に直接お話を聞きまして、やはり伊東市の活性化と若者の流出を防ぐ、雇用の場を与えるなどヤングケアラーって18歳未満の子どもが本当は大人がしないといけないケアをやらなければいけないという状況の子たちを指すのですが、その子たちを支える視点がないというのも今の日本の現状です。それを考えてくれた高校生ってすごいなと思ひまして、直接話を聞いて、伊東市や企業の活性化のためには、学生が考えたプランが積極的に取り入れられたら、私達の福祉の視点でも助かりますし、福祉業界も雇用が集まらなくて、いつも人手不足ですので、このようなところで何かまちづくりと一体的にやることができれば良いなと考えています。このような意味でも、この会議を通して、皆さんの意見が聞けたら良いなと思います。

【F委員】

皆さん、こんばんは。私は、伊東に来る前は、千葉県の市川市に住んでおりまして、ずっと父が転勤族でしたので基本的には関東を転々としていまして、東京が一番長かったです。

そんな感じで過ごしていたのですが、約3年前に、ちょうどコロナが流行り始めた2020年の4月に地域おこし協力隊制度を、伊東市の観光課で初めて採用するというのを知りまして、一度も来たことがなかったのですが、昔、新潟でも地域おこし協力隊をやっていたことがありまして、ただそのときは、環境が厳しくて、途中で断念して雪にやられて帰ってきたので、次はリベンジするなら暖かい場所が良いなと思って、きっかけとしてはそんな理由だったのですが、伊東にやってきました。今は伊東市の観光課所属で地域おこし協力隊として勤務しています。任期が3年と決まっております、あと2ヶ月で協力隊の任期が終わるのですが、自分はもう東京に帰りたくないと思い、伊東が気に入ってしまったので、自分で事業を起こしました。去年の9月に本とレコードを

販売するお店をオープンしました。今もダブルワークでやっております。今年の4月以降はお店をやりながらどこかで働かないといけないなという状況にあります。課題といえますか、移住者目線で申しますと、私の周りでも最近20代、30代の移住者の方が増えているのをすごくこの3年間だけでも実感しています。ただ、皆さんバイタリティーのある方々で起業したくて伊東にやってくるという方が多いです。先ほど、B委員もおっしゃってみたいに転職先として伊東に移住してくるという方をあまり聞きません。今、私も求職中なので調べていて、たくさん仕事はありますが、サービス業が多いので、そういった偏りや実は知らなかったという仕事がたくさんあるのではないかと思います。人を増やすという意味でも、若い人に来てもらうという点でも、仕事情報をもっと発信できるようになったら良いなと思います。どうぞよろしくお願いします。

【G委員】

こんばんは。私は、高校まで伊東でして、神奈川の短大に行って羽を伸ばして、就職までしたのですが体調を崩してしまい、地元で仕事を斡旋してもらうことができたので、戻ってきました。

今の仕事は、学童クラブの支援員をしています。教育長とは何度かお話しをしていますが、市P連の立場からですと、小学校の統廃合が進んでいます。私の子どもが池小に通っているのですが、今のところ統廃合の心配はないと思いますが、池小も児童数が減ったり増えたりしていますので、いずれはそういうことになるのかなと思うと、不安になります。

私が学童クラブを設立した理由は、池小を廃校にしたくないという理由です。統廃合が進むと、学区が広がるので、交通面が不便だなと感じています。伊東小学校を作るにあたり、スクールバスを走らせると思いますが、池では路線バスが1日3本とかです。来年度から中学校の先生方の働き方改革で、下校時間が早くなります。そうすると保護者がどうしても迎えに行かなければなりません。そもそも、バスが夕方2本しかありません。6時近くと6時過ぎのバスしかないのでも乗れません。そうしますと、親が迎えに行かなければなりません。私たちのような親世代は歩いて学校に通っていたので、40分かけて歩いて通学できるかもしれませんが、それはかわいそうだよなと思ってしまいます。このような理由から、スクールバスが欲しいなと考えていまして、池区長たちに掛け合おうと考えています。中学校に娘が上がるので、それを機に大型バスではなくてコミュニティバスのような小さいバスを走らせていただけたら嬉しいなと考えています。

池は、老人も多くいて、コロナ前はナガヤのトクシマルさんが来てくれたので、高齢者も不便なく買い物ができていたのですが、来られなくなってしまいました。高齢者は買い物にも行けません。伊豆高原が近いのでよく聞くのは、移住された方が高齢になって結局買い物にも行けなくなって、東京に戻ってしまう。その方々もこの場所を終の棲家にしたくて移住してきているのに、思うようになれていないのはどうなのかなと思っています。

私は学童クラブの支援をしているのでその観点から言いますと、学童クラブの利用料が、全国的に伊東市は高いです。学童クラブへの補助金は、県内でもトップを利用しているらしいので、これ以上は難しいと思います。小野市長が市長になられたときのタウンミーティングで池に来られたときに質問したのですが、5歳児の保育料を無償化にし

ますという政策をされたと思います。そのときになぜその政策をするのですかという質問をさせていただきました。お孫さんがちょうど5歳で来年小学校に上がる際に、小学校に上がる時にお金がとても掛かるのを見て、その負担を軽減させてあげたいという思いがあるということでした。小学校になったらお金が掛からないのかなと思ったら、学童クラブにもものすごく掛かります。月額1万3,000円です。それでも平均ぐらいだと思います。幼稚園や保育園は無償で、国の施策かもしれませんが、もう少し市で対応いただけたら嬉しいなと考えています。そして、夏休み、春休み、冬休み、働く保護者は毎日お弁当を作ってくださいます。この負担はものすごいと思います。幼稚園や保育園は給食配給や給食ですし、働く保護者が増えるようにするのも市長の公約でしたので、整備をしていただけたら、安心して働けて、働く人も増えると思いますし、中学生になったから統廃合になったから送り迎えをしなければいけないから仕事を変えなければという保護者も少なくなると思いますので、この辺を課題として、やっていただけたら嬉しいなと思います。よろしくをお願いします。

【H委員】

皆さんこんばんは。私は静岡市の出身でして、伊東市に移り住んで5年ぐらいになります。中・高は静岡市に通い、大学は富士市に通っていました。大学を卒業して、新卒で浜松の職場に就職をしまして、1年間、浜松で仕事をしました。職場の転勤の関係で伊東市に来たのが関わるきっかけとなりました。伊東で仕事をする中で、また転勤があるんだろうと考えまして、転勤がきっかけで出会えたのも一つ理由ですが、また転勤がきっかけでこの地を離れてしまうのが少し寂しいなと感じましたので、仕事を変えてみようと思ひまして、今のR-S h i pがI T Oマルシェなどのイベントを行っていましたので、お手伝いに関わる中で、一緒にやっていくこととなりました。普段は、駅前商店街、湯の花通り商店街で事務所を構えて、商店街で様々な企画を計画・実行したり、I T Oマルシェや駅前の賑わいを創出しようと企画をしています。キネマ通り商店街でアンテナショップぬくも一るも運営してしまひて、伊東の色々なお店の魅力であったり、イベントの情報発信を地域の方や観光客の皆様に発信をしています。

また、それ以外には、移住定住をご検討されている方々とコミュニケーションを取りまして、実際のお困りごとやどのようなところに興味があるのかをヒアリングし現地ナビゲート事業をしています。

また、市の観光課や独自でも行いますが、伊東の魅力を発信するために、市内・市外・県外のイベントに出店をして伊東のイベント等の情報を発信する活動をしています。普段は、私自身もぬくも一るの店頭に立って接客する機会が多いですが、観光のまち伊東ですので、コロナ禍でどうしての浮き沈みが激しい中、それでもお店を運営したいといけません。もちろん自分のお店だけではなく、商店街の皆様と様々な話をします。その中で苦しい状況から乗り越えるための企画を計画するのですが、やはり個々のお店だけでは苦しいねと、どうにか協力して何かをやりたいけれども、どのような方向性でやっていけばよいのか等のお話を皆さんと常日頃しながら、イベントで市外や県外に出たときに、そのまちの様子や商店街の様子を見てどのような取り組みをしているのかということをお勉強しています。もちろん全てが観光地ではありませんので条件が違ふとは思いますが、日々、アンテナを高くして考えております。私自身まだまだ引き出しが少ないので、このような場に参加させていただいて、意見交換を行う中で知識を広げ

つつ、私自身が商店街やイベントで感じていることなどを共有しながら何か力になればと考えています。

【I 委員】

皆さんこんばんは。私も生まれも育ちも伊東でして、大学進学で市外に出ました。高橋教育長の教え子でもありますので、少し緊張しています。この会議で何を話したらいいのかと正直悩んでいました。まず、中小企業家同友会は、良い会社を作ろう、良い経営者になろう、良い経営環境を作ろうという三つの目的で経営者、経営幹部が集まる団体です。静岡県に11支部ありまして、大体1,100人ぐらいのメンバーがいます。その中で企業作り、地域作り、同友会作りというの三つの運動がありまして、地域作りにこういう活動が当てはまるのかなと思って、多分選んでいただいたのかなと思います。

先ほどから皆さんの話を聞いていますと、職場環境をどのように作っていくかというのは経営者にとって大変な悩みです。先日の雇用改善対策会議にも出席させていただきましたが、人手が足らなくて、この年末年始でもホールインの梅屋さんは、お菓子を包む人がいなくて、店舗を閉めていました。マックスバリュなどの大きい店舗には出荷していたようですが、店舗を閉めるという形を取らざるを得なかったようです。旅館も客室が空いていても、実際は閉めていたようでして、本当に人手不足が如実に出ているのだなと感じています。そのような中で、どのようにして働き手を集めるかというのは中小企業にとっては、本当に大きな問題です。先ほど話が出たように、少し抜けて子どもを迎えに行く環境を企業が今までの考え方を変えて、職場のあり方とか、「お母さんを介護施設に送りにいかないといけないから抜けます。」というような環境が作れる企業が増えてくると自然とこのまちは良くなるのかなと思います。シンプルに考えて、従業員満足度が高い会社はお客さんを大事にします。社員がやりがいを持っていますので、伊東市も全く同じだと思います。市民の満足度が高いと自然と他所から来るお客さんに優しくおもてなしができると思います。旅行に行った際に、料理や温泉等も記憶に残るかもしれませんが、あの女将さん良かったなとか、道がわからなくて地元の人に助けってもらったなということの方が印象に残ってたりします。やはりこのようなことが大事だと思いますので、市民の意識改革をして、まち作りというか人作りができると思いいます。お金も掛からないと思いますし、市民の意識が変わるだけでも全然違うのかなと思いますので、このような視点で私なりに考えながら参加させていただきたいなと思います。よろしくをお願いします。

【J 委員】

私も伊東に来てまだ8年しか経っていません。藤枝市の出身でして大学を卒業してから教員の世界に入りまして、新規採用で伊東に来て、今に至ります。赴任から2年目に観光に関わる観光ビジネス事業を校内で立ち上げることになりまして、私が新人で何もなかったので私が担当しました。そこから始まったのが今の観光ビジネスです。先ほど市長がおっしゃっていたように、本日生徒たちが発表をしたのですが、私は伊東のことを全く知らないところから始まりました。最初は生徒と一緒に授業の一環として街中に

出かけたり、企業の方や市役所の方とやらせていただいて、やはり伊東のまちの魅力に私自身が気付く機会が結構あったなと感じております。

全ての生徒ではありませんが、最初の授業で伊東の良いところを言ってくださいと言うと「何もない」と言ったり、何か欲しいものがありますかと聞くと「映画館が欲しい」と答える生徒が多いです。1年間観光の事業を行うと、やはり伊東が良かったと言ってくれる生徒も増えていきます。私は市外から来たので魅力的なところが多くあるように感じるのですが、生徒たちは外に出ることの憧れも強いのかなと思います。私も去年まで6年間担任をやりまして、2回卒業生を出しましたが、地元就職する生徒もいますが、都内に目が向いて専門学校や大学に進学する子も多くいます。地元に残って、地元で貢献できるような人物をどのようにして育てるかということと、観光以外の面でも伊東の魅力をもどのように高校生が発信していけるのかということを考えていかなければいけないと思っています。来年度から新しい学校になりまして、市内で唯一の高校である伊豆伊東高校として開校しますが、商業科にあたるビジネスマネジメント課では、観光ビジネスを2年生が必修で受講するような教育課程を作りました。県内の商業高校でもあまりありません。伊東の観光を打ち出していきたいと思っています。この会議でどれだけ自分がお役に立てるか分かりませんが、勉強をさせていただいて少しでも若い世代をどのように伊東に貢献できるか考えたいと思います。

【K委員】

去年の4月に静岡県東部の農協が合併しまして、ふじ伊豆農協協同組合になりました。その中で、営農指導員という仕事をしています。農家さんの畑を回り、病気であったり、害虫であったりの防除の指導をしております。私は、生まれも育ちも伊東で、大学だけ、東京に行きました。それから農協に10年間勤めています。普段、農家さんと関わる機会が多いので、これからの伊東に望むことを考えたときに、観光客が多く来てくれる地域になることだと思います。私は柑橘類の担当をしまして、今の時期はよく柑橘が取れて販売の時期です。首都圏から来る方はよくみかんを買ってくださる方が多くいますので、観光客が増えてくれれば良いなと考えています。

また、最近、物価が高騰しています。資材や農薬の価格が上昇しています。実際に販売する際には、高騰分を価格に乘せることがかなり難しいです。みかんが高くなると、観光客も購入してくれませんので、価格自体が上がれば一番良いのですが、価格を上げることができないというのが現状です。他市町村だと、物価高騰対策で補助金を交付しているとも聞いていますので、伊東市もそのように取り組んでもらいたいと思います。

また、農協とは全く違いますが、個人の意見として、私も伊東から出て、東京・神奈川の大学に進学しましたが、地元に戻ってきたいかと聞かれたときに、実際は帰ってきましたが、伊東に戻ってきたいと思わなかったのが、戻ってきたいと思えるような伊東市になればと思っています。

【市長】

これで委員の皆様からご意見をいただきました。この後、企画部長、教育長、副市長私の順に意見を述べたいと思います。

【企画部長】

貴重なご意見ありがとうございました。様々な職業の方、様々な経験をした方、移住をしてきていただいた方などがおりまして、企画する立場にある市の職員として非常に参考になります。

移住の話がありましたが、委員がおっしゃったように若い移住者がかなり増えていきます。それは私どもも実感しています。伊東市は、外国人でない日本人の転入と転出の差が県内でトップです。伊東市には海や山があり、様々な要因があると思います。しかし、市内の高校生アンケートを見ますと遊ぶ場所がないなど、もう何年も前から顕著に言われていますので、そこを何とか打破していくことが私どもの役目であると考えています。高校の先生もいらっしゃいますので、高校生にも伊東市が行う政策について伝えていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

【教育長】

貴重なご意見をいただきまして、非常に勉強になりました。皆さんそれぞれが歩んできた人生のお話をさせていただき、その中で教育に関わる部分についてお話をさせていただきましたので、これから伊東の子どもが暮らしやすく学習しやすいまちを皆さんと一緒につくりたいということ強く感じました。

G委員には学童を立ち上げていただき、素晴らしい経営をしていただいております。私も何回か伺い、子どもたちが楽しめる工夫が多くされていました。池小学校については、小規模特認校として市内のどこからでも池小に通学できることになっていますので、直近では77人の児童が通っています。

教育について皆さんの素晴らしい意見を伺いまして、勉強していききたいということを感じました。ありがとうございました。

【副市長】

貴重なご意見ありがとうございました。例えば子育ての問題、商店街の活性化の問題、物価高騰対策の問題。まさに今伊東市が抱えている課題についてご意見をお聞かせいただいたなと思っています。中でも、聞いていて一番耳が痛かったのがB委員もいらっしゃいますけど、公共交通の問題はかなり深刻な問題です。公共交通と言いつつもやはり採算性がないものをそのまま走らせるということは、如何かというような考えもあります。一定程度は市で運行するという事業も行ってはいますが、なかなか厳しい状況です。それに代わるものとして南部地区で予約型のデマンド乗り合いタクシーを始めましたが、効果があんまり見えてこない状況にあります。次の何か新しい一手を考えなければいけない時期になっております。やはり今までの考え方では、なかなか立ち行かない局面がありますので、そのような局面に対しまして皆さんの柔軟な考えで何とか突破していくような会議にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

【市長】

皆さんからご意見聞けて私も本当に勉強になります。それぞれの立場で、所属団体の代表という形もあるかもしれませんが、1人の市民としての生の声が聞けているという感じがしました。言うまでもなく伊東市は少子化問題をととても重要視しています。昨年の1月から12月までの出生数は210人です。

200人を切るかもしれないと聞いていたので、少ないながらも少し安心をしましたが、どんどん生まれる子どもの数は減っています。そこを何とかしたいですが、どうすれば良いのかいつも課題として挙げています。新しく学校を統合したり、高校も三校が一つになり、新しくスタートします。子育て環境又は教育環境のリスタートであると思いますので、次の機会にも皆さんが感じていることについてお伝えいただきたいと思います。

それから深刻な問題は物価高騰です。それに加えて人材不足です。静岡県の最低賃金も944円まで上がっておりまして、例えば、求人募集でパートさんの時給を1,000円で募集しても、なかなか申込みがないという状況の中で、高騰した原材料価格を商品に転嫁できない状況が続いていますので、どのようにして打開していくか、非常に大きな問題であると思います。

また、先ほど話がありましたが介護や福祉、医療といった移住やUターン、Iターンに向けて、始めよう伊東新生活応援事業を3年間実施しました。福祉基金を利用しまして、奨学金の返済を10年間お手伝いしたり、引越し費用を30万円補助したりしました。3年間実施した結果として、特に看護師が多いですが、利用者が多くいましたので、次なる手を考えているところです。もうすぐ新年度の予算公表をしますので、次回の会議では、例えば建設関係の資格者を伊東市も募集しますが、集まらない状況が続いています。いろんな業種が苦しんでいる中で、またどんな方法で応援できるかを考えていかなければいけないと考えています。

それから、公約の中でも進めたものとまだ課題となっているものがあります。市民運動場は、綺麗な人工芝になりました。新しい図書館も今年の4月か5月に入札がありまして、夏から工事が始まるという段階までできました。この未来ビジョン会議でもテーマにし、地域ごとのタウンミーティングでも、ご意見を拝聴しまして、大体皆さんのご意見を反映できるものの設計ができました。それから大きいもので申しますと、伊東駅前の再開発です。私も伊東で育ちましたが、駅前広場の姿が昔とほぼ変化していませんので、利用者の利便性を高められるような、あるいは景観が現在にふさわしいものに変えていきたいと思います。また、観光会館も56年以上経過してまして、耐震基準も満たされていません。津波の浸水区域でもありますから、早期に取り組んでいきたいと思っております。ご意見として、音響がもっと良いホールにしてほしいなどのご意見があります。皆さんのご希望に添えるようにしていきたいと思っております。

また、私個人としても参考にするために、皆さんから意見をいただく場面や行政の政策についてもご意見をいただき、修正できるものは修正をしていきたいと考えています。この会議では、伊東市を住みやすいまち、訪れたいまちにしていくための根源となる皆さんの意見をいただきたいと考えておりますので、冒頭にも申し上げましたが、ざっくばらんに意見交換をしたいと考えています。

それでは、事務局から今後の運営について、説明がありますので、それをもって終了とさせていただきます。今後、是非、夢のあるお話を聞かせていただければと思っております。

(5) 閉会

事務局から今後の運営及びスケジュールについて説明。

以 上